「コミュニティ・スクール」の取組について　（光明支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①学校運営協議会の立ち上げ（委員は保護者、地域住民、福祉・医療関係者などで構成）
②学校運営の基本方針の承認
③協議会や研修会を通して、学校と地域の連携課題の共有



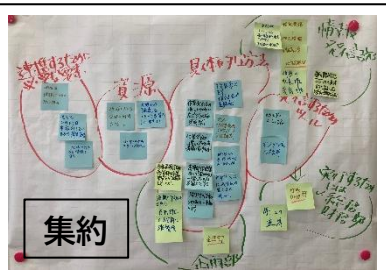
活動内容

①設置要領の承認、委員委嘱、事業計画の承認
②講師を招き、学校運営協議会を立ち上げる際に必要なことについての講話聴講
③テーマに沿って熟議を行い、今後のや活動の方向性を検討・共通理解
④学校評価に係る確認・検討、次年度に向けた課題の確認



成　果

①委員として、昨年度までの学校評議員に地域の方を加え、学校運営協議会を設置した。
②研修会では、講師を招き熟議体験を通し、協議会運営で大事にすることとして「話し合いの質を上げる」「教育目標を話し合うことで質が上がる」などを学んだ。
③第２回協議会では、熟議を通して今後必要となる部会や活動の方向性を検討し、地域や学校の情報を発信する広報部や活動内容を充実させる企画部、総務部などが上がった。



課題・改善点

①地域への情報発信と個人情報保護との兼ね合い
②教職員の負担感を軽減しながらの取り組み方
③地域資源の情報収集と活用の仕方
④活動する際の予算の確保

今後の方向性

①保護者・地域への情報発信の強化（個人情報保護に配慮しながら、学校だより・ホームページ、市民センターなどで協議会の活動を定期的に紹介）
②連携先リストの整備、役割分担の明確化などの地域連携の仕組みづくり
③地域とともに育つ「共生社会の拠点」としての学校づくり

「コミュニティ・スクール」の取組について　（船岡支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①今年度から学校運営協議会を設置し、会議のもち方や学校での取組などを模索した。
②会議は学校からの報告にとどまる面もあり、活発な議論・熟議までには至っていない。



活動内容

①会議を年３回（７月、１１月、２月）に開催
②教職員向け研修会を外部講師を招いて１０月に実施



成　果

①研修会により、教職員に地域との交流への意識や情報発信への意欲が高まった。
②学校や地域、子どもたちが抱える課題の解決について、関係者の意識が高まっている。
③教職員側から地域との交流など、具体的なアイディアが生まれてきている。

課題・改善点

①活発な意見交換や協力体制を生む会議の運営方法について学んでいきたい。
②学校や子どもたちの課題に対して、地域でどのように育てて何を実現していくのか、委員間でのビジョンの共有が難しい面もある。
③教職員から出されたアイディアを、委員の方々とどのような形で実現していくかを検討していきたい。
④活発な意見交換の場とするため、委員の構成を再検討する。



今後の方向性

①地域との交流活動に力を入れて活動を展開していく。
②教職員から出されたアイディアを、委員の方々からも協力を得ながら実現していく。
③活動ニーズに応じて委員のメンバー編成を検討し、グループごとの活動も進める。
④活動や取組の様子を積極的に地域へ発信していく。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（山元支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①本校の学校運営方針を承認する。
②本校の強みや課題、学校運営等について意見を述べる。
③本校学校運営協議会の活動方針について検討する。



活動内容

①隣接する宮城病院の病弱部門を含む全校児童生徒の授業見学
②ＣＳマイスターを招へいしての研修会
③本校の強みや地域とのつながりをテーマにしたグループディスカッション



成　果

①委員の方々に本校の児童生徒の実際を見てもらった。
②ＣＳマイスターの講演で、学校運営協議会制度の理解が深まった。
③本校の強みや課題についてたくさんの意見をいただいた。
④福祉避難所開設について、山元町、亘理町と学校の３者で会議をもった。
⑤高等部の製品販売会の事前広報（行政の広報誌・ＳＮＳ、地域ＦＭ）を行った。



課題・改善点

①学区が山元町と亘理町であるが、山元町関係者のみの委員構成である。
②学校運営協議会について教職員の理解が十分ではない。
③学校運営協議会の活動の方針や具体的な動きの多くが決まっていない。
④地域人材を活用した特別授業を企画する予算がない。
⑤児童生徒が休日に行われる地域イベントに参加する際の学校の対応。

今後の方向性

①亘理町の関係者も委員に加え、協議の幅を広げていく。
②学校運営協議会への要望等の教職員の声を定期的に会議で共有していく。
③学校運営協議会の活動の方針を協議し、方針に沿った具体的な動きを検討していく。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（金成支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①今年度はコミュニティ・スクール立ち上げの年であり、９月からのスタートとなったため、年３回の開催計画で実施した。なお、次年度以降は年４回の開催を計画している。
②委員は、障害福祉、行政、自治会、教育関係機関、地域事業者など多岐にわたり、多様な視点から学校運営に参画していただいている。
③協議では、学校経営方針や教育活動を共有するとともに、地域との連携の方向性や今後の取組、課題解決について熟議により意見交換を行っている。



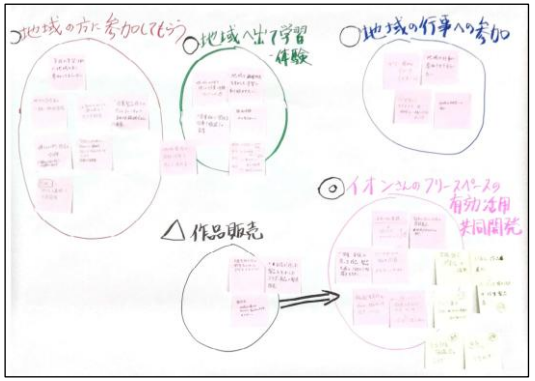
活動内容

今年度の熟議により、次年度は以下の取組を進めることになった。
①イオンスーパーセンター栗原志波姫店に児童生徒の作品や作業製品を常設で展示し、来店者に本校の児童生徒の学習活動や成果を広く紹介する機会を設ける。
②地域の新聞店や栗原市役所企画部市民協働課と協力し、児童生徒が主体となって地域へ情報発信を行う取り組みを進める。
※具体的な実施の方法については、今後の協議会で検討していく。



成　果

①今年度は具体的な取組の実施には至らなかったが、学校運営協議会での協議や熟議を通して、学校と地域との連携が深化した。
②地域内の関係機関同士のつながりが強化され、今後の取組に向けた基盤が整えられた。



課題・改善点

今年度は立ち上げの年であったため、コミュニティ・スクールや学校運営協議会の役割理解を優先し、学校主導の運営となったことが課題である。今後は委員長・副委員長を中心に、運営や議題設定を委員主体で進める体制へ移行していく必要がある。

今後の方向性

今後は、委員主体の協議会運営へ徐々に移行し、地域との協働を深めつつ、常設展示や情報発信などの取組を具体化していく。また、地域事業所との連携の拡大や、学校行事の在り方の見直しにも取り組み、より開かれた学校づくりを進めていく。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（気仙沼支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①令和６年度に学校運営協議会を設置して２年目、委員１６人と学校教職員で組織している。「学校教育目標及び共生社会の実現に向けて、本校の教育や児童生徒のことを地域の方にもっと知ってもらうためにどうすればよいか」をテーマとして熟議を重ねた。
②令和７年度は、学校運営協議会を年４回開催した。



活動内容

①上記テーマでの学校運営協議会での協議・熟議
②熟議を受けて、作品展部会とリーフレット作成部会を立ち上げ、部会での協議・熟議
③巡回作品展の開催、リーフレット作成の準備
④学校地域協働活動を行うための「学校応援団」団員や団体の募集準備



成　果

①巡回作品展を開催し、児童生徒が制作した作品をとおして、学校のＰＲを行うことができた。
②松岩公民館の館長をオブザーバーとして招き、地域学校協働活動に関わる助言や協力を得られた。
③令和８年度からの地域学校協働活動に向けての「学校応援団」の募集を始める予定。



課題・改善点

①コーディネート役の地域学校協働活動推進委員がいないため、地域との連絡・調整が学校からが主となり、担当者の負担が大きい。県立学校にも推進委員の配置を求めたい。
②実際に地域学校協働活動を行うにあたり、活動者の傷害保険等の財源や活動に係る費用等の財源をどのように確保していけばよいかが課題である。

今後の方向性

①地域学校協働活動本部となる「学校応援団」を募り、地域協働活動を本格的に開始する。
②これまでの地域や近隣学校、各団体との交流活動などを地域学校協働活動として体系化していき、一体的な活動としていく。
③巡回作品展やリーフレット作成等をとおして本校をＰＲし、地域協働活動に関わる人を増やしていく。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（名取支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①「地域の皆さんに学校を知ってもらおう」
②「地域と交流をしよう」

活動内容

①高等部を中心とした作業製品開発会議（写真上）の実施
②高等部作業体験と意見交換会の実施
③高等部作業製品の校外販売会（写真中）の実施
④回覧板や名取駅掲示板の作品展示等を通して本校の活動の様子を地域へ周知
⑤高舘地区の方との交流活動の充実（高舘音頭(写真下）や卓球クラブ交流等）







成　果

①作業製品開発会議では、ＣＳ委員から活発で建設的な意見をたくさん頂き、新製品の開発、使いやすさや耐久性を工夫した製品の開発に大いに活かすことができた。
②校外販売では、地域の回覧板が集客のアップにつながり、多くの集客が生徒の製品販売に対する意欲の向上の一助となった。またCS委員や来客者の口コミ等によって、地域のお祭りや運動会の景品として大量の発注を頂くことができた。
③CS委員が地域住民との橋渡し役となり、本校の教育活動を紹介しながら、児童生徒の障害理解の啓発に貢献した。
④様々な地域交流活動が、生徒たちの余暇活動の拡大につながった。

課題・改善点

①地域の方のニーズに合わせた製品の質と数量の確保。
②地域との交流活動の充実と継続的な実施。

今後の方向性

①高等部の実践を継続しつつ、次年度は中学部へ拡大。
②小学部、名取が丘校の地域交流活動の計画と実施（CS委員のアイデアを生かした計画）。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（小牛田高等学園）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①年間3回の学校運営協議会の実施。
②地域交流部会、進路支援部会、福祉支援部会の3つの部会を設置。
③４年目を迎え、取組が一定程度定着してきている。

活動内容

①学校経営重点目標及び各学年・各部の目標についての情報共有。学校及び授業見学、各部会で今年度の課題の確認と今後の取組について協議。
②美里中学校「地域学校連携室の取組」について講話をいただく。学校の取組について中間発表と今後の取組について確認。接客班によるコーヒーの提供。
③各学年・各部の活動報告と次年度に向けた改善点について確認。学校評価結果について説明。令和8年度学校経営方針を審議。各部会でのまとめと次年度へ向けての活動方針について協議。

成　果

①接客班「コゴタカフェ」を美里町駅東交流センターで3回実施することができた。
②フラダンス部による美里町内のイベント「小牛田駅フェス」への参加につながった。
③美里町社会福祉協議会主催の「あいあいマルシェ」で作業学習製品の販売、カフェの実施、フラダンス部の発表を継続して行うことができた。
④流通・サービス清掃班による美里町役場での窓清掃の実施につながった。

課題・改善点

①学校運営協議会を設置して4年がたち、部会の見直しが必要になってきている。
②地域行事等への参加は定着してきているが、人的交流については継続的な関係づくりという点で、今後の工夫が必要である。

今後の方向性

①部会の目的や役割を再構築し、より機動的に協働できる体制を整えていく。
②これまでのつながりを維持しながら、新たな取組の模索、検討を重ねる。







「コミュニティ・スクール」の取組について（利府支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①学校教育目標や重点目標を中心とする学校運営方針の承認および達成状況評価
②運営協議会委員が教育活動や児童生徒の実態を把握するための授業参観や学校見学会の実施
③学校広報充実を目的とした作品展の企画
④校外学習活動の補助
⑤地域の人的資源を活用した行事の実施
⑥隣接する小学校との危機管理体制に関する連携



活動内容

①学校運営協議会の開催
（本校：年３回・５月、６月、２月、塩釜校４回：５月、７月、１２月、２月）
②運営協議会委員による現場実習参観・現場実習報告会参観の実施（キャリア教育部会主催）
③運営協議会委員による学習発表会参観の実施（地域連携部会、児童生徒理解部会主催）
④近隣の大型商業店舗における児童生徒作品展、高等部作業製品販売会開催
（地域連携部会、高等部主催）
⑤地域のボランティアによる「読み聞かせ会」の実施（塩釜校部会主催）
⑥危機管理体制について塩釜市立第二小学校とマニュアルの共有を行うなどの連携（塩釜校部会主催）
⑦運営協議会委員による校外学習同行や見守りの計画（地域連携部会主催）



成　果

①児童生徒作品展では、本校関係者の他に多くの方々にも本校の教育活動や児童生徒の学びの様子を知ってもらい、たくさんの励ましのメッセージを得ることができた。
②学校を地域に開く観点において、推進的役割を果たすことができた。
③学校見学会や読み聞かせ会の実施により、地域との連携を深めたり啓発活動を推進したりすることができた。
④危機管理体制について近隣小学校との連携を強化し、マニュアル改善につなげることができた。



「コミュニティ・スクール」の取組について（利府支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

課題・改善点

①年度初めに学校運営協議会について校内で周知し、地域の人材活用や連携について様々な意見やアイデアを募ったが、実施できずに終わった活動があった。次年度は具体的に計画に組み入れて取り組んでいきたい。
②今年度は「学校は地域を知る。」「地域の皆さまには学校を知ってもらう。」「お互いのことを知って理解を深めあっていく。」ことを主軸に活動してきたが、それを受けて次年度以降新たな取組を始めることになった場合、連携する分掌部や教職員の負担にならない活動を企画立案していく必要がある。
③災害時の避難体制の確立と行政との連携の強化





今後の方向性

①運営協議会委員は学校の運営者の一員であるという共通理解を図り、学校運営により積極的に関わってもらえるよう促しつつ、熟議に取り組んでいく。
②運営協議会で議論したことを性急に教育活動に導入するのではなく、少しずつ時間をかけて学校の運営に浸透させ、学校行事の精選とセットで改善に取り組んでいく。
③塩竈市の人的資源や施設の活用を通した地域との連携、危機管理体制の強化を強化していく。
（塩釜校部会）

「コミュニティ・スクール」の取組について　（女川高等学園）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

本校のコミュニティ・スクールでは、「キャリア教育部会」「地域連携部会」「防災教育部会」の３部会を中心に、学校と地域が協働して教育活動を進めている。キャリア教育部会は現場実習や就労支援、地域連携部会は学校間・地域との交流促進、防災教育部会は防災指導や行事の充実を担っている。委員は地域の多様な分野から12名が参加し、各部会の目的に応じた専門性を持つ人材が配置されている。例えば、キャリア教育にはハローワーク所長や商工会関係者、防災教育には防災士などが参画している。このように、地域の専門性と協力を得ながら、実効性の高いコミュニティ・スクール運営を推進している状況である。



主な活動内容

①【進路支援充実事業】
卒業生の事例発表と真壁病院看護補助課長の講演を実施した。生徒58名、保護者15名、教育関係14名とキャリア教育部会委員を通じ福祉関係団体より９名の計96名が参加した。
②【総合防災訓練】
今年度の防災避難訓練は、ＣＳ委員や地域の方々と協働し、学年ごとに生徒主体で実施した。１学年は防災バック作り、２学年は浸水歩行体験、３学年は救命救急訓練に取り組んだ。
③【地域と共に学ぶ防災研修会】
ＨＵＧ*１訓練を企画した。
＊１：避難所運営ゲームの略（避難所運営をみんなで考えるためのアプローチとして、静岡県が開発した図上訓練）



成　果

①商工会会長の協力で実習先募集が一括発信され、教員の企業訪問負担が軽減された。ＣＳ機能により校務負担の縮減が進み、実習支援の効率化が具体的な成果として表れている。
②大学関係者による学校間交流の創出や行政区長からの行事参加の働きかけ、他校とのコラボ展開など、多様なつながりが広がり、地域を柔軟に捉えた連携が着実に深まっている。
③生徒主体の総合防災訓練を地域と協働で実施し、防災意識が向上した。今年度もぼうさい甲子園優秀賞を受賞し、７年連続の評価につながる成果を挙げている。
④進路支援充実事業では、生徒・保護者・教育関係者・福祉団体が一堂に集い、障がい者の一般就労への理解を深める有意義な学びの場が形成され、進路支援の質向上につながった。



課題・改善点

【予算の制約】 本校のCS運営は限られた予算の中で継続しており、報償費や旅費上限などの制約が活動全体に影響を及ぼし始めている。現状では以下の懸念が生じている。
〈懸念①：組織の質的低下〉 遠方の委員を招致しにくくなり、必要な専門性を持つ人材の確保が難しくなる。また、旅費不足により委員の来校回数が減少し、部会での熟議が深まりにくく、CS本来の課題解決力が弱まる恐れがある。
〈懸念②：事業の発展停滞〉 報償費の制限で希望の外部講師を招くことが難しく、教職員や委員の外部研修参加も制限される。社会の変化や最新知見を取り入れる機会が減り、事業の質向上や内容の発展が難しくなる。
〈懸念③：教職員負担の増大〉 外部専門家の協力が得られず、研修内容の調査、資料作成、委員との細かな調整など、専門性を要する準備を教職員が担わざるを得ない。その結果、本来業務に割く時間が圧迫され、学校運営全体に影響が及ぶ可能性がある。

今後の方向性

本校では、限られた予算の中でCS活動を継続していくことが大きな課題となっている。予算面の制約は、組織の質の維持や教職員の負担増につながる懸念もあり、現状のままでは取り組みの停滞を招きかねない。しかし、そのような状況下にあっても、CSの人材や地域の知恵・専門性を効果的に活用することで、活動を持続的に発展させることは可能であると考えている。学校と地域が互いにメリットを感じられるWin-Winの関係を基盤に、創意工夫を重ねながら、持続可能な連携体制の構築を進めていくことが今後の重要な方向性である。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（秋保かがやき支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①学校運営協議会の定期的な開催
②熟議による開校２年目までの取組の振り返りと今後に向けた方針検討
③コミュニティスクールの愛称検討と決定
④教職員に向けたＣＳ理解促進を目的とした校内研修会の実施





活動内容

①年間５回の運営協議会の開催
②現在行われている取組についての精査と今後の方針検討のための熟議
③秋保かがやき支援学校におけるＣＳの愛称決定に向けたアンケート調査と愛称の検討
④運営協議会に参加していない教職員に向けた理解促進のための研修会実施



成　果

①運営協議会の中で新たに連携する活動や定例となる取組について精査することができた。
②熟議を通して、会の取組の広報活動、親しみを持てる愛称などを決定することにした。
③運営協議会の委員に講師をお願いして研修会を開催し、校内での理解を深めた。
④部活動の発表の場を提供していただくなど、さらに地域との連携を強化できた。
⑤児童生徒の温泉入浴体験など、今後の取組について発展的な提案をいただいた。



課題・改善点

①現時点までの取組をしっかり振り返り、無理のない持続可能な運営体制を整える。
②学校運営協議会、地域の事業者以外の住民の皆様にも本校を広く知っていただく。
③地域と連携した学習活動を展開する上で、ＣＳとしての取組を校内で共有する。
④取組を拡大していくよりも、行っている取組をさらに意味のあるものに深化させる。





今後の方向性

①決定した愛称「きらスクＡＫＩＵ」を浸透させ、校内外に向けた広報を行う。
②地域との連携については今後もさらなる拡充が期待できるが、取組を精選し、持続可能な形で計画することで、
　地域にも学校にも負担とならないようにする。
③地域にある小中学校などとも可能な範囲で交流を広げる。
④非常に良い形で地域連携が進んでいると捉え、現在の取組を継続していく。

「コミュニティ・スクール」の取組について　（松陵支援学校）

～今年度の成果と課題、今後の方向性について～

取組の概要・現状

①学校運営協議会立ち上げ
②コミュニティ・スクールについて知ろう。
③熟議体験

活動内容

①学校を知ってもらおう。
②運営委員・教職員でコミュニティ・スクールについて知ろう。
③運営委員・教職員で熟議を体験しよう。

成　果

①運営委員に学校経営計画について理解してもらうことができた。
②学校見学や開校記念式典で児童生徒の活躍の様子を見ていただくことができた。
③運営委員・教職員が共にコミュニティ・スクールについて学んだ。
④運営委員・教職員で熟議の大切さを実感した。

課題・改善点

①運営委員の方々に学校の課題についてさらに深く理解いただく。
②業務改善を視野に入れた運営について具体的に進める。
③法改正に伴い、３分類１９項目についての具体的な進め方を学ぶ。

今後の方向性

①学校の課題について共に協議しながら改善の方向性を探る。
②３分類に伴った業務の精選を実施する。
③運営協議会で熟議を重ねながら、アイディアを出し工夫を加えながら実施していく。

